

外国船舶の係船作業の 安全対策キャンペーン No.19



【運輸部】

平成 21 年 3 月 20 日に神戸港のコンテナバースで係船ロープの破断により綱取作業員 2 名の死亡事故が発生しました。事故発生後 10 年目をむかえた現在も、依然として破断事故が発生していることから、改めて事故の重大さを再認識し、再発防止に向けた安全対策の強化を図る目的で、2 月 25 日から 3 月 8 日までの 2 週間、全国一斉にキャンペーンを実施しました。



痛みが激しい係船索

運輸部外国船舶監督官は、寄港した外国船舶に対し海上における人命の安全や海洋環境の保全を図るため、船舶の構造設備、海洋汚染防止に係る措置、乗組員の資格要件や労働条件について国際条約に適合しているか検査（ポートステートコントロール・PSC）を実施しています。

今回のキャンペーン期間中にPSCを実施した外国船舶については、係船索及び係船設備に関して重点的に確認するとともに、英語版のリーフレットを配布し、係船設備の整備状況や危険性の認識その他関連項目について、乗組員に対してインタビュすることで係船索の安全な使用について注意喚起を行いました。

係船作業時に発生する破断・挟ま

れ事故は、係船索の保守点検不足や係船作業計画などの措置が十分にとられていないことや、乗組員と陸上作業員とのコミュニケーション不足が要因と考えられています。係船索が破断した時にはスナップバック（跳ね返り現象）が引き起こり、時には鉄板も変形させる衝撃となることもあります。神戸での綱取作業員 2 名の死亡事故は、スナップバックの危険性について認識がなくスナップバックの危険範囲内で綱取り作業を行っていたため発生したものと考えられています。

配布したリーフレットは、スナップバックの危険性を周知するとともに事故を回避する方法を提供することを目的に作成しています。PSCを受けた外国船舶の乗組員は、リーフレットの死亡事故の記事に強い関心を示し、真剣な表情で説明を受けていました。

キャンペーン終了後も係船索の安全対策について周知するとともに、海上における人命の安全、海洋環境の保全及び海洋汚染防止業務に取り組んでまいります。

スナップバックとは？

係船索が異常に張った状態で破断した時、その係船索が瞬時に跳ね返ってくる状態をいう。

その破壊力は破断した索に掛かっていた荷重の1.7倍にもなり、人身に当たれば、人命にかかわる大惨事となる。



PSC実施中の様子（係船機）



係船索で船を岸壁に固定